

令和 6 年 5 月 23 日現在

機関番号：32683

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13289

研究課題名（和文）現代中国プロテスタント教会をめぐるグローバル化と政教関係の変化に関する研究

研究課題名（英文）The Influence of Globalization on Church-State Relationship in Contemporary China: A Research on Local and Global Chinese Protestants and Churches

研究代表者

村上 志保（Murakami, Shiho）

明治学院大学・キリスト教研究所・研究員

研究者番号：90526790

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は中国国内のプロテスタント教会を主な調査対象とし、宗教をとりまく環境のグローバル化の実態、国を越えて移動する信者たちの宗教実践および宗教的アイデンティティの多様化の状況、さらにそれらが中国の政教関係に与える影響について分析することを目的としたものである。新型コロナウイルス感染拡大による渡航規制のため、調査対象を海外で改宗し中国に帰国した海帰キリスト教徒に絞り、中国プロテスタントにおけるトランスナショナルなネットワーク形成と、国際移動の制限下の海帰キリスト教徒の現状を分析した。結果として現在はトランスナショナルなネットワーク形成は主にサイバー空間を中心としている状況等を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、2010年代半ば以降の中国国内における海帰キリスト教徒（以下「海帰教徒」）増加に注目し、中国において生じている宗教をめぐる移動やネットワークの国を越えた拡大をめぐる、宗教側と政府の間のせめぎ合いの状況を明らかにした。中国政府は長年宗教の越境性を封じることで宗教をコントロールしてきたが、中国経済の発展とグローバル化に伴う人々の国際移動の拡大と多様化は、宗教政策による制限を越えたトランスナショナルなキリスト教コミュニティの形成を後押ししてきた。本研究の意義は、中国において現在進行中である宗教をめぐる大きな転換点を、特に信者たちの国際移動の影響という点から明らかにした点にある。

研究成果の概要（英文）：This study originally planned to conduct research among Protestant churches in China, with the aim of analyzing the actual state of globalization of the environment surrounding religion, the state of diversification of religious practice and religious identity among believers who move across countries, and the impact of these changes on political and religious relations in China.

Due to the timing of the research coincided with the tightening of transnational travel restrictions by the spread of new coronavirus infection, the main subject of my study limited to the returnee Christians who were returned to China after converted to Christianity during their stay in foreign countries and analyzed the transnational network formation in Chinese Protestantism and the current situation of returnee Christians under the limitations of international mobility. As a result, I could clarify that transnational network formation is now mainly centered in cyberspace.

研究分野：社会人類学

キーワード：中国プロテスタント 宗教政策 国際教会 グローバル化 海帰キリスト教徒 華人キリスト教コミュニティ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 中華人民共和国における宗教をめぐる動向：中国において宗教は共産党政権による厳密な管理体制下にあるが、1980年代以降、様々な要因により宗教の規模や社会への影響力が拡大し続けてきた。特にプロテスタントは信者数が急速に増加すると共に、近年では知識人や企業家の間でも信者が増加し、社会に対して一定の影響力を備えるようになってきている。この状況を反映して、習近平政権は宗教に対し強硬路線を採り、特にキリスト教およびイスラムに対して規制を強めてきた。2020年における新型コロナ感染拡大は、国内外における移動の規制とともに中国国内の宗教活動に対する監視や規制がさらに強まる機会となった。

(2) 中国キリスト教をめぐる研究動向：現代中国におけるキリスト教の状況をめぐる学術的議論は、主に政教関係に集中してきたが、1990年代以降の中国の急速な変化は、政教関係を中心とするアプローチの限界をますます顕著にしてきた。すなわち、宗教活動に影響を及ぼしうるファクターは政治以外に経済発展、都市化、生活スタイルの変化、グローバル化など多様化してきた為、それらを含みこんだ分析と議論が主流となりつつある。しかしながら、2015年以降の「宗教中国化」政策による宗教統制の強化、さらに新型コロナ感染拡大による渡航規制のため、中国国内での調査が困難になっており、中国国内の教会と関わりのある国外の教会や団体を通じた調査や現地情報の取得による研究が増加している。

(3) 本研究の位置づけと意図：本研究では、近年における中国の急速な社会変化のなかで、特にグローバル化が中国キリスト教に及ぼす影響に注目している。中国は今や世界第二位の経済大国となり、国際社会におけるプレゼンスも高めつつあるが、その結果として、宗教を含めた中国社会全体において対外的な交流や国際化が急速に進んできた。その急速な変化が、国内における宗教環境に少なからぬ影響を与えうることは十分に予想されることであり、中国キリスト教をめぐる学術研究においても、グローバル化の影響の拡大はますます頻繁に指摘されるようになってきている。本研究も中国プロテスタントに対するグローバル化の影響を明らかにしようとするものであるが、特に、中国国内と国外両方においてキリスト教徒としての信仰生活を経験し、中国国内において国内と国外の架け橋となりうる新たな信者集団である「海帰キリスト教徒」に焦点を当て考察を行うことにより、中国人キリスト教徒の多様な国際移動の結果として生じる共産党政府が定義づける宗教をめぐる国内と国外の境界線の多孔化の様相を明らかにすることを意図している。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的：本研究は、中国における宗教をめぐる環境のグローバル化の実態および国を越えて移動する信者たちの宗教実践および宗教的アイデンティティの多様化の状況、さらにそれらが中国の政教関係に与える影響を明らかにすることを目的とする。中国が国際社会において、経済面のみならず政治面においても大国として承認されるには、宗教などの人権問題に対して政府が適切に対応する体制を築くことが不可欠である。中国が国際社会におけるプレゼンスを高め、グローバル社会とのインタラクションを深めるにつれ、管理と規制に基づく現在の宗教政策を維持することは早晩不可能となってゆくと予想される。この点において、21世紀以降のグローバルな社会的コンテキストの中で成長する諸教会がいかに貢献しうるのかを検討することは、中国の今後をうらなう意味でも極めて重要な着眼ポイントとなる。

(2) 本研究における問い：上記の状況に鑑み、本研究では「1) 政策により国家という枠組みに強制的に縛り付けられている中国キリスト教が、海外との連携を築く中でいかなる宗教共同体を形成し、宗教アイデンティティを形成するにいたっているのか、2) 翻ってその変化はナショナリズムを強める中国における政教関係にいかなる影響を及ぼしうるのか」という問いに基づき、現代中国における宗教をめぐるグローバル化と国家による統制がせめぎあう状況について調査・考察を行った。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究における調査対象：本研究では宗教に対するグローバル化の影響について検討するため、当初の予定では調査対象は、経済発展とともに急増してきた都市部のホワイトカラー層を中心とした都市新興教会と中国国外にある華人教会を調査対象とする計画であった。しかしながら、新型コロナ感染拡大による海外での調査の難しさから、調査対象を

海外で改宗し中国に帰国した海帰キリスト教徒の状況に絞り、海帰キリスト教徒を焦点に中国国内外での教会や信者のネットワーク形成の現状の分析を行った。

(2) **本研究における研究の方法**：計画段階での研究の方法は、中国、台湾、香港および北米の華人教会におけるフィールドワークを主としていたが、採択決定時にはすでに全世界に置いて新型コロナ感染拡大による移動規制が始まっており、その状況がいつまで続くのか明らかではない状態であった。そのため当初の計画を変更し、まずは文献やインターネット上で得られる情報の分析を中心とし、2023年度は台湾、香港の海帰キリスト教徒と関わる教会および団体での聞き取り調査を行った。

#### 4. 研究成果

##### (1) 調査によって明らかになった点：

海帰教徒の大規模な増加という現象は2000年代に入ってから顕著になった現象であり、海帰教徒という新たな信者集団がどの程度国内の教会や政教関係に影響を及ぼしているのかは未だ十分に明らかになってはおらず、研究者やキリスト教関係者によりその評価は大きく分かれる。例えば Huang は海帰教徒数の急速な増加および彼らの社会的地位やポテンシャルの高さから、その影響力を高く評価している。しかし一方でその流失率は高く、海帰教会のほとんどは小規模かつ閉鎖的であり、中国におけるプロテスタント教会全体の一角を占めるに過ぎない。そのため、海帰教徒や海帰教会はトランスナショナルなコネクションや経験を豊富に持つが、現在までのところそれらを国内のキリスト教徒や教会とうまく接合するには至っていない。その要因には海外生活という特殊な環境の中で改宗した海帰教徒のキリスト教徒としてのアイデンティティの相対的な弱さもあるが、何よりも中国の宗教政策下において極めて制限された宗教環境が海帰教徒の中国社会への接合を大きく阻んでいる。

習近平政権下での宗教政策は、宗教関連法規の改訂により宗教のトランスナショナルな動きを封じ込める姿勢を示している。さらに2020年以降の新型コロナウィルスの感染拡大を契機として生じた国際移動の規模が縮小は、これまで続けてきたグローバル化による様々な変化の大きな転換点となり、中国国内のプロテスタント教会をめぐるトランスナショナルな活動の場は、オンライン上に移行しつつある。

##### (2) 研究成果の発表：

以上の研究成果は、学会での報告2件、論文1件として発表している。また現在執筆中の論文が1件ある。いずれも国内での発表である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 村上志保	4. 巻 55
2. 論文標題 現代中国プロテスタント教会をめぐるグローバル化の影響 - 海帰キリスト教徒の事例を中心に -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 明治学院大学キリスト教研究所紀要	6. 最初と最後の頁 203-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 村上志保
2. 発表標題 現代中国プロテスタント教会をめぐるグローバル化の影響 - 海帰キリスト教徒の事例を中心に
3. 学会等名 2021 年度キリスト教研究所 3 月研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村上志保
2. 発表標題 中国プロテスタント教会をめぐる2000年代以降のグローバル化の動向と影響
3. 学会等名 日本現代中国学会第70回全国学術大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Edited by Fenggang Yang and Chris White, contributed by Yucheng Bai, Jeffrey Chiu, Calida Chu, George Dunn, Shiho Murakami and others	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Lehigh University Press	5. 総ページ数 422
3. 書名 Christian Social Activism and Rule of Law in Chinese Societies	

1. 著者名 村上志保	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 296
3. 書名 上海におけるプロテスタントー現代中国の都市と宗教空間をめぐる変遷	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------